

公開シンポジウム

自然を 活かして 防災する

— 災害と恵みのかかわり —

日時 2018年

2月10日(土)

午後2時～午後5時20分(開場 午後1時30分)

入場
無料

会場

福井県立三方青年の家

多目的ホール(体育館)

福井県若狭町鳥浜122-27-1



主催

環境省環境研究総合推進費

「ハビタットロスの過程に着目した生態系減災機能評価と包括的便益評価手法の開発」研究グループ

環境省環境研究総合推進費

「人口減少、気候変動下におけるグリーンインフラ — 生物多様性・防災・社会的価値評価」研究グループ

総合地球環境学研究所

「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災(Eco-DRR)の評価と社会実装」研究グループ

自然環境は、さまざまな恵みを私たちの暮らしや社会にもたらしています。

自然の恵みの一つに自然災害の抑制があり、

「生態系を活用した防災減災」のアプローチが近年注目されています。

日本は、古くから多くの自然災害を経験してきましたが、気候変動が進むと、

さらなる自然災害が引き起こされると懸念されています。

さらには、人口減少や財政問題などの社会的課題は、

これからの防災減災のあり方にも影響します。

本シンポジウムでは、自然災害と自然の恵みのかかわりを国内外のさまざまな事例に学びながら、

これからの人と自然のかかわり方について共に考える機会をつくれます。

自然を
活かして
防災する

Program

開催趣旨

東京大学大学院総合文化研究科・総合地球環境学研究所 准教授 吉田丈人

講演

「東日本大震災における気仙沼市の被害と 舞根地区における地域主体の復興」

慶應義塾大学 環境情報学部 教授 一ノ瀬友博

「自然豊かで安心安全な地域づくり

—国内と海外の事例から」

北海道大学大学院農学研究院 教授 中村太士

「三方五湖流域がもたらす 自然の恵みと自然災害のかかわり」

東京大学大学院総合文化研究科・総合地球環境学研究所 准教授 吉田丈人

ポスター発表（研究グループ有志）

総合議論

司会 吉田丈人